銚子市水道事業の沿革

区　分	認可年月	竣工年月	計画給水人口	主な内容
創　　設	昭和12年３月	昭和14年３月	30,000人	さく井（４井）、本城浄水場建設、春日台配水場建設
第１次拡張	昭和27年３月	昭和34年３月	40,000人	白石取水場・白石貯水場建設、本城浄水場改良・増設、愛宕山高区配水場建設
第２次拡張	昭和35年12月	昭和39年３月	64,000人	本城浄水場改良・増設、春日台配水場増設
第３次拡張	昭和40年３月	昭和44年３月	82,000人	新宿取水場建設、富川取水場建設、本城浄水場改良・増設、上野町配水場建設
第４次拡張	昭和44年３月	昭和49年７月	83,200人	新宿取水場増設、本城浄水場改良・増設、上野町配水場増設、笠上町高区配水場建設
第５次拡張	昭和50年３月	昭和63年３月	121,000人	諸持町受水配水場・高架タンク建設（東総広域水道企業団受水施設）、愛宕山高区配水場建設（更新・増設）、三崎町高区配水場建設
第６次拡張	昭和55年３月	昭和57年３月	121,000人	高田町配水場建設
第6次拡張変更	平成12年３月	平成16年３月	80,000人	新宿取水場／高度浄水処理施設建設

市制施行と上水道布設計画

昭和８年２月、三町一村を合併して銚子市が誕生し、従来の漁港の町としてだけでなく産業都市として整備を図る起点に立ちました。

初代の市長には千葉県の地方課長として地方事情に詳しい川村芳次氏が推薦されて就任し、銚子市発展のために燃えるような若い情熱を傾倒して、新生都市の指導者として敏腕を振るいました。

川村市長は、古来水のないことに悩んできた銚子に水道施設がないことを遺憾とし、近代都市としての発展のためには、日常の市民生活用水の必要性からも、伝染病対策からも、一大漁業基地としての船舶用や水産加工用に井戸水を肩運搬している不便・不衛生の点からも、醤油醸造等の産業発展の上からも、また、防火上の必要からも水道の必要は緊急切実で、猶予の余地はないと痛感していました。

昭和９年に県の衛生課に依頼して実施した市内の井戸の実態調査の結果、銚子の水が質の点で非常に劣っていたことが判りました。飲料に適するものはわずか20％、80％の井戸はそのまま飲んではいけない水であり、煮沸しても、ろ過しても使用できない全く飲用不適のレッテルを貼られたものが50％以上もありました。

昭和11年８月に市議会を招集し、上水道布設計画を上程しました。昭和11年度から13年度までの３カ年継続事業として工事費65万円の上水道布設工事を行うもので、当時の銚子市全般の予算額（経常歳出と臨時歳出合わせて57万円）を凌駕する巨額の工事費を投入する大事業でした。

市議会の可決後、昭和11年８月に事業認可申請書を千葉県知事を経て内務大臣に申請し、昭和12年に事業認可の指令を受けました。昭和13年10月に千葉県知事あて給水開始届を提出し、工事の完成した地域から逐次給水を開始しました。

初代市長　川村芳次氏